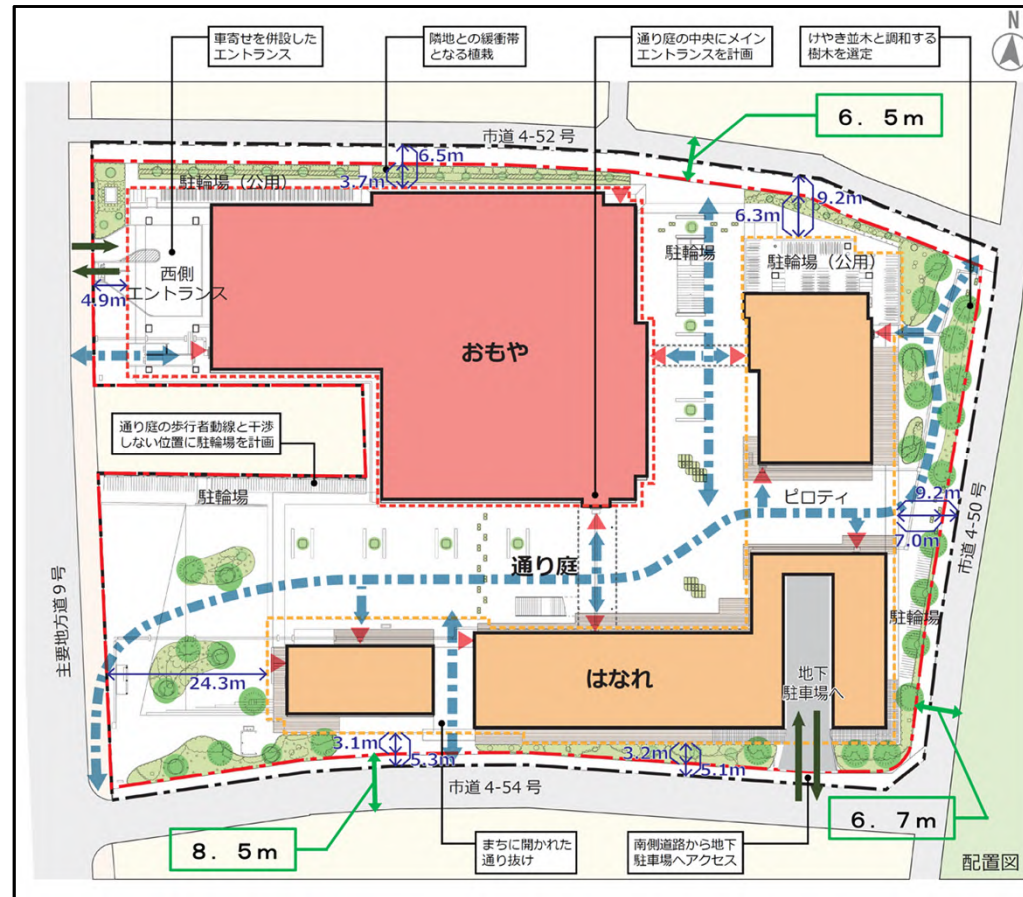


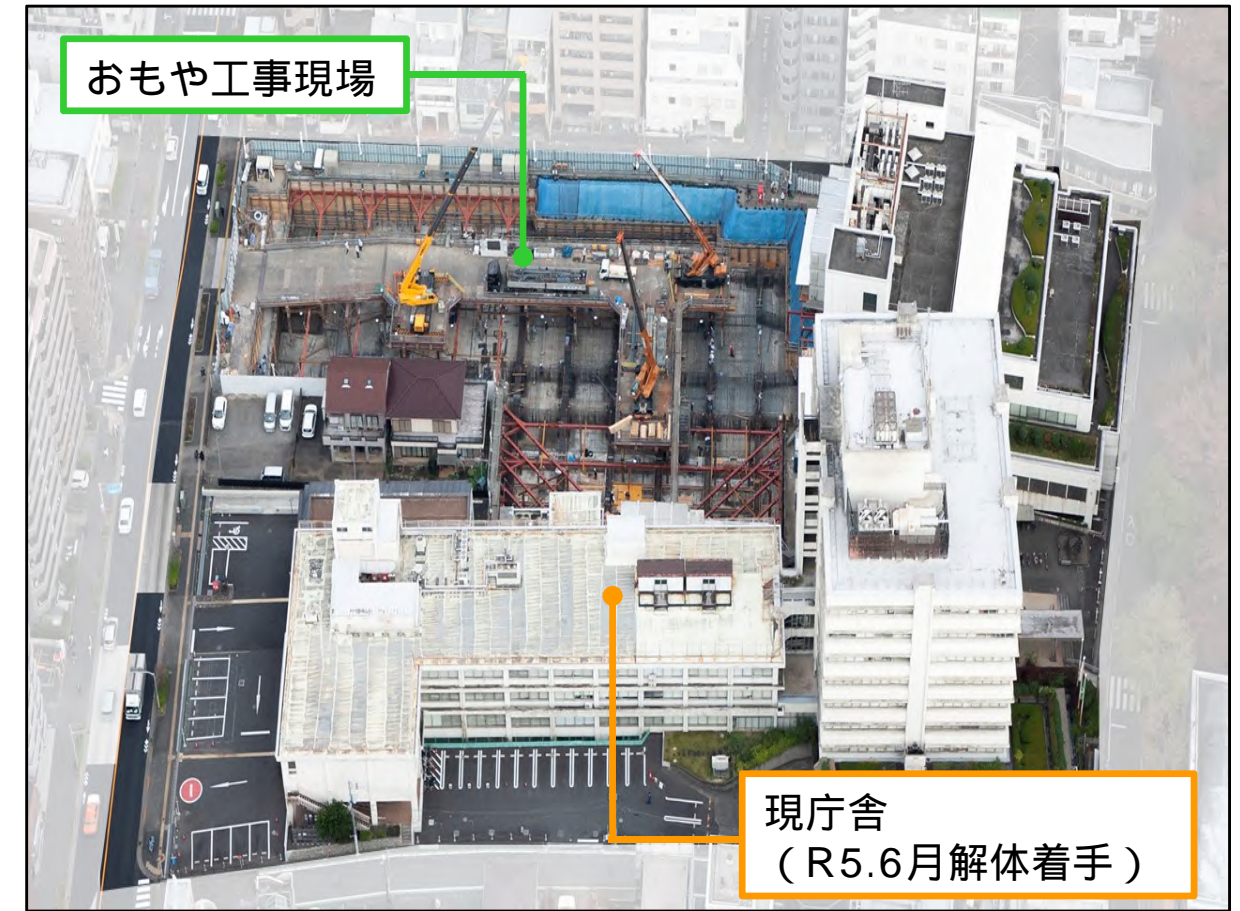
【建物概要】

敷地面積	11,064.85㎡
用途	事務所、図書館、店舗、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造)
階数	地上6階 地下1階
最高高さ	30.14m
延べ面積	32,362.67㎡
建築面積	6,349.29㎡

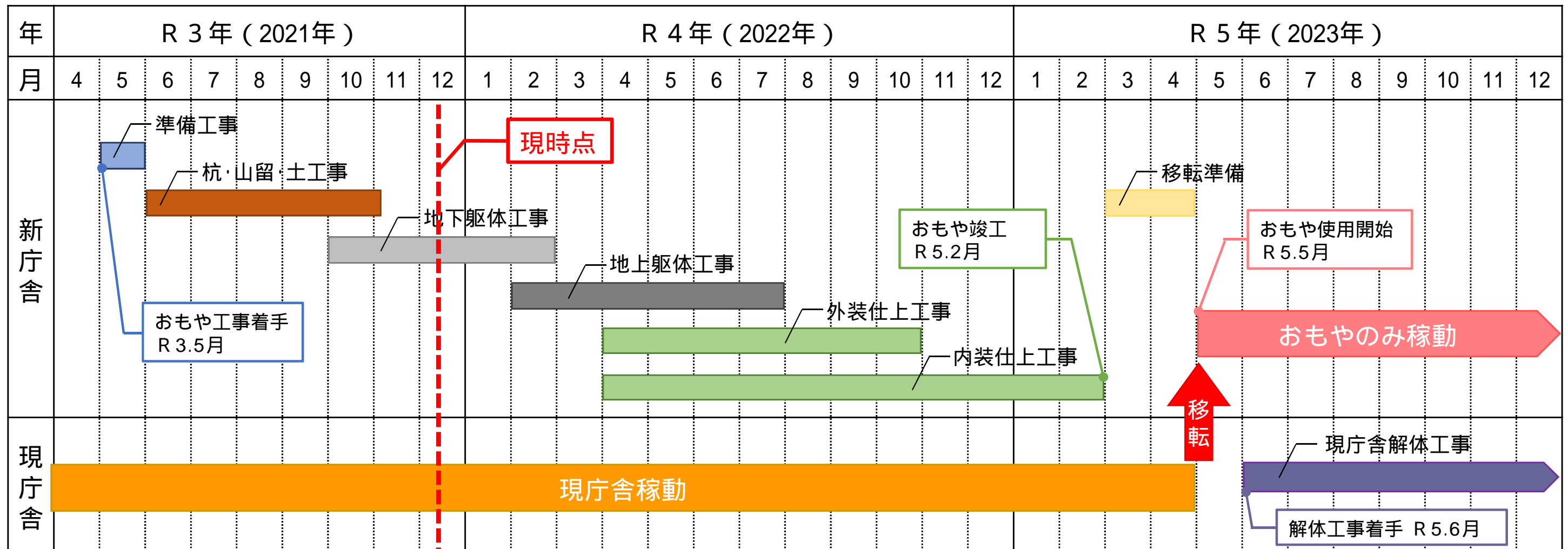
【配置計画】



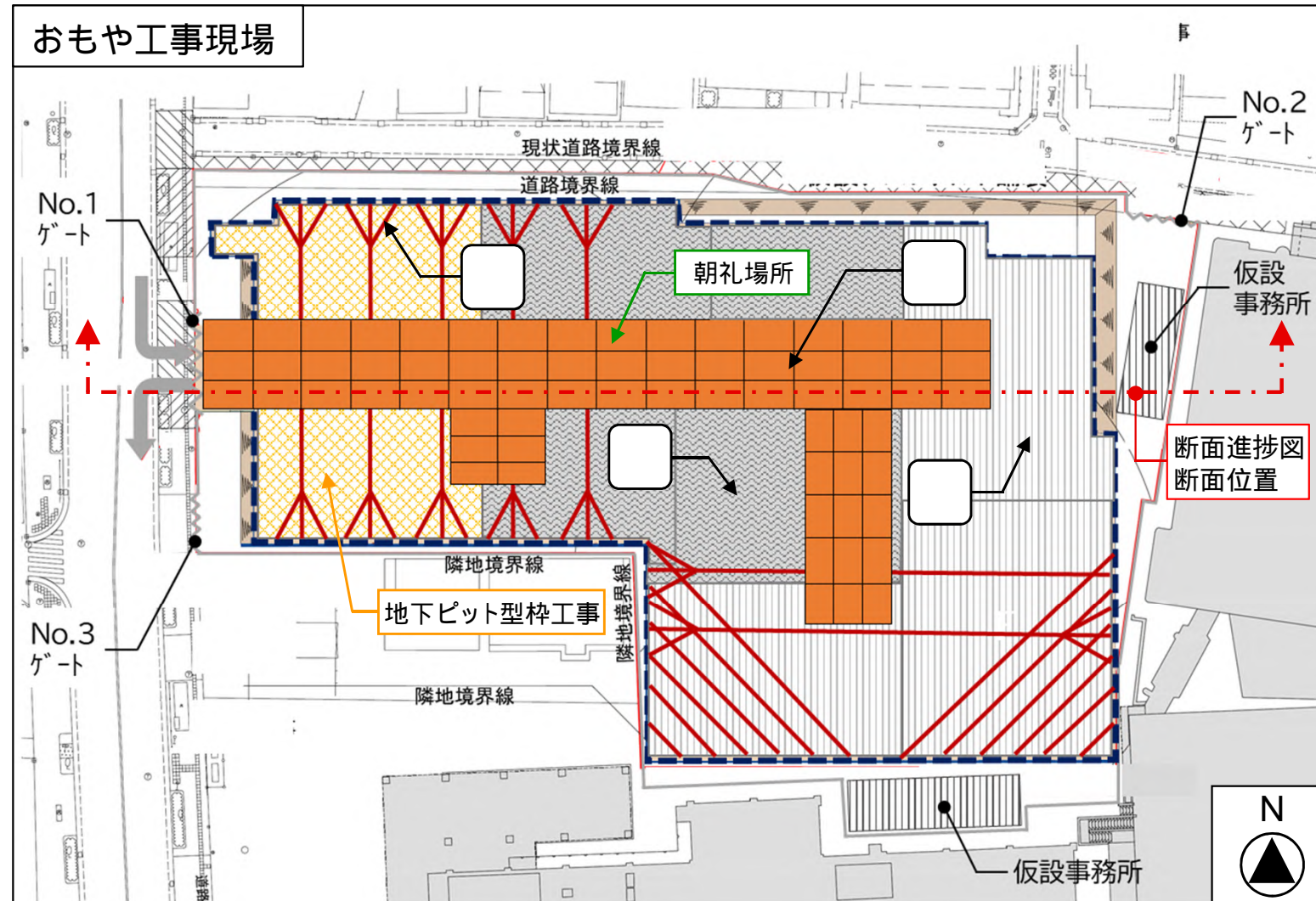
【航空写真 (R3.11月末時点)】



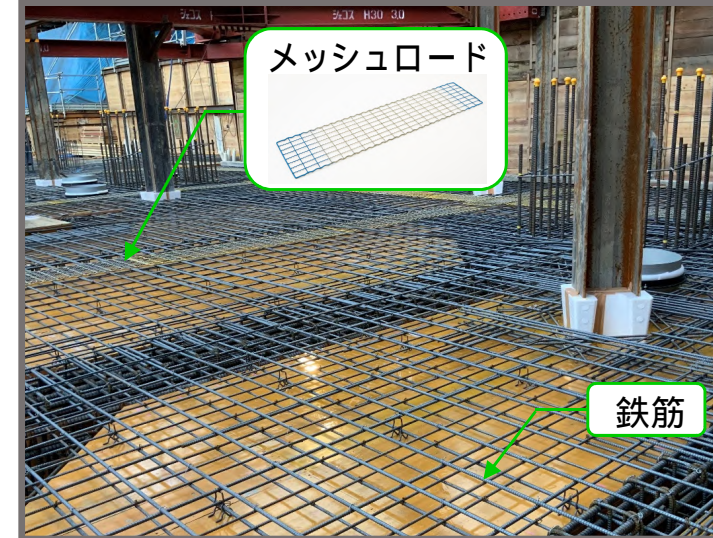
【工程表】



【平面進捗図】



配筋工事(地下1階床)



- 地下1階床の鉄筋組立作業を行っています。鉄筋はそれぞれ径、長さ、強度、形が違っており、それらを一本一本手作業で組み立てています。
- 鉄筋が配筋された床の上は歩きにくいいため、「メッシュロード」という鉄製の網を並べて、作業員の通路を確保しています。

コンクリート打設工事(地下1階床)



- 工区を全部で9つに分けて、1つの工区ごとに1日かかりでコンクリート打設をしています。
- 打設後、コンクリートが固まり始めた頃に、作業員が金ごてを用いてコンクリートの押さえ作業を行い、亀裂の発生を防ぐとともに、表面を平滑に仕上げます。

構台架設工事



- 「構台」とは、工事車両を現場内に乗り入れるための仮設の作業台です。
- 大きさは幅8m、長さ65mで、約2t/m²の重量にも耐えられるように頑丈につくられています。
- 構台上に「ラフタークレーン」を配置し、資材等の揚重作業をしています。

切梁(きりばり)架設工事



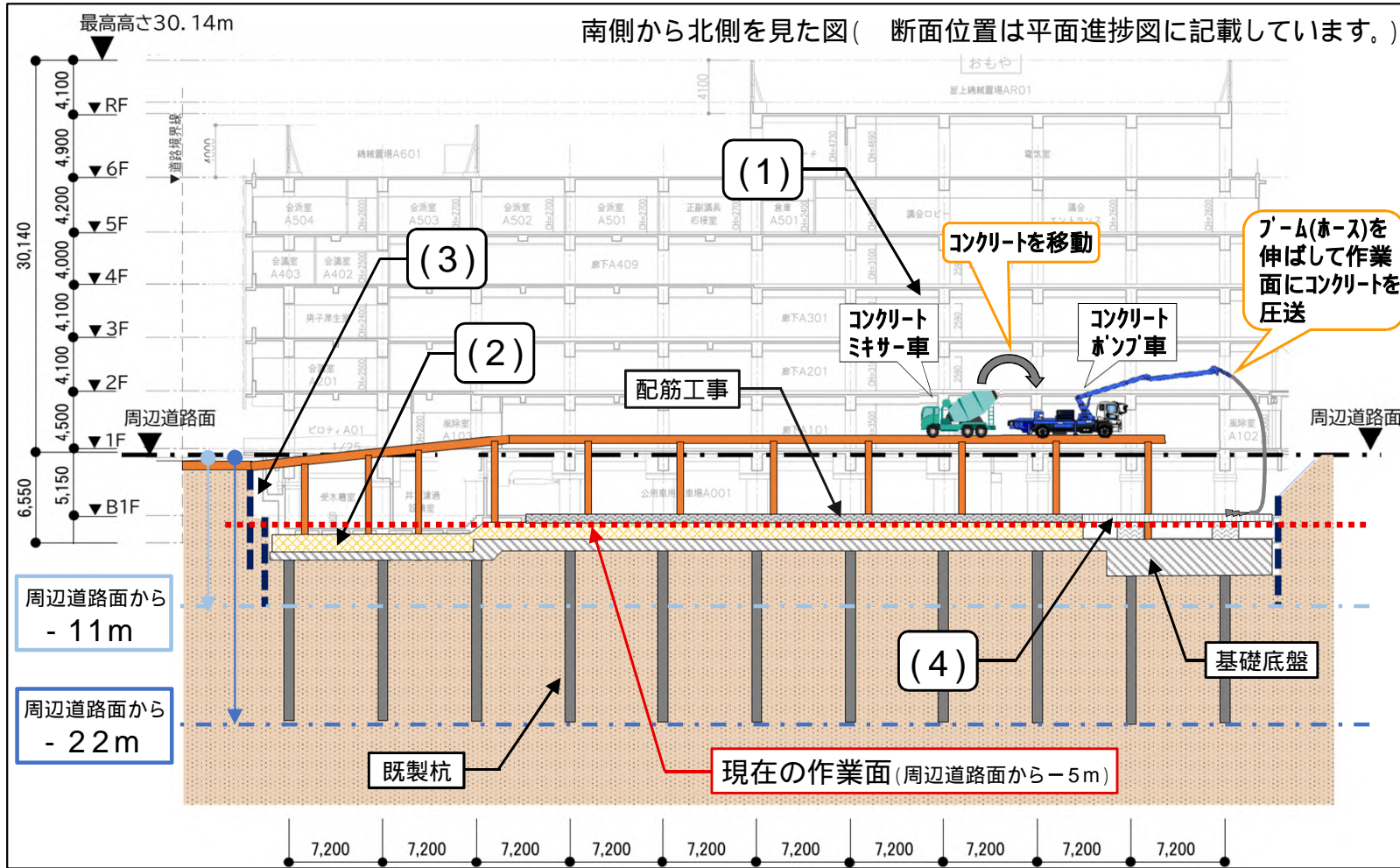
- 「鉄骨」を組み立てるとともに、「油圧ジャッキ」で土留壁に圧力をかけて、周囲の地盤の安全を確保しています。
- 毎日の点検や測定器による土圧の測定など、日々の安全管理に努めています。

現場の紹介：朝礼

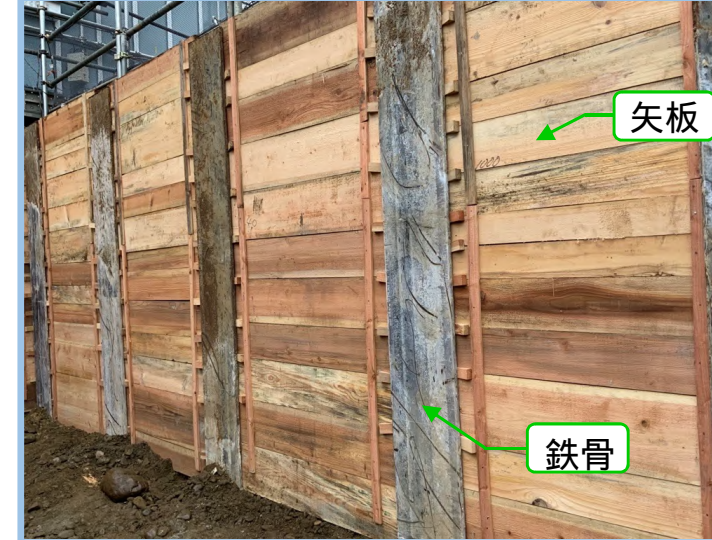


- 毎朝8時から作業員全員で朝礼を行っています。朝礼はまずラジオ体操を行い、その後にLEDディスプレイを利用して、当日の作業内容や危険ポイントを確認しています。
- 現在は約90名の作業員が現場内で作業しており、現場内の整理整頓、周辺的安全確保の徹底に努めています。

【断面進捗図】

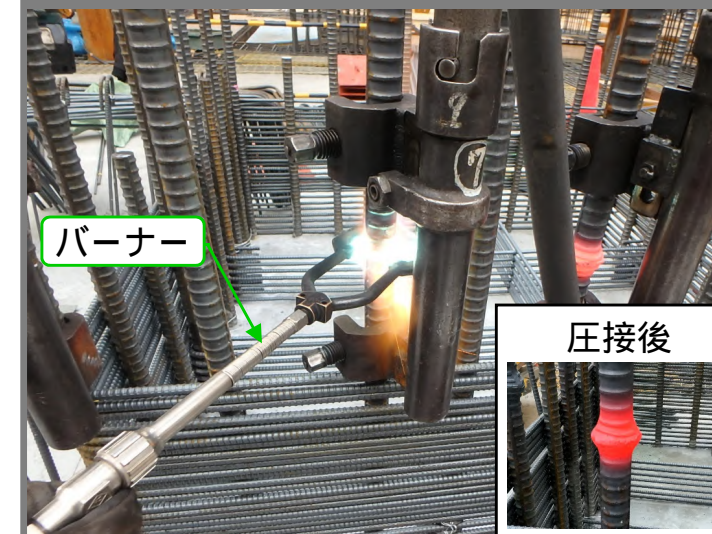


(3) 山留(やまどめ)工事



- ・「矢板(やいた)」一枚の長さは約1.5m、厚みは3~6cmで、スギ材を使用しています。
- ・「鉄骨(H鋼)」は、周辺道路路面から約11mの深さまで埋め込まれています。また、地盤を抑える役割を果たす「矢板」は、一枚ずつ作業員の手作業で設置されたものです。

(4) 地下1階躯体工事: 圧接工事



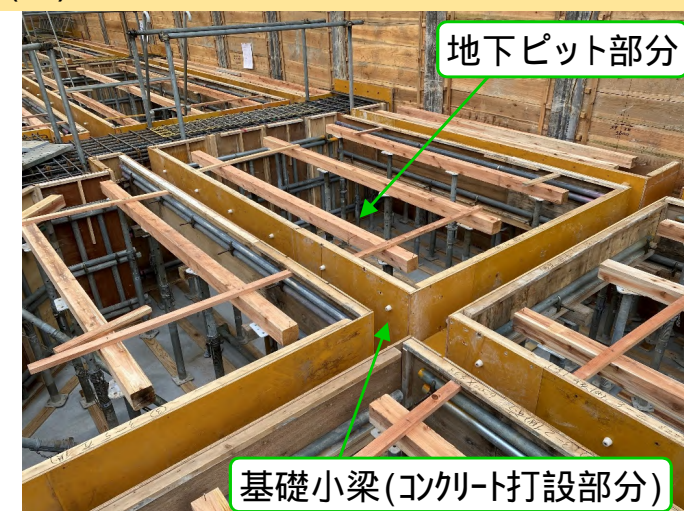
- ・地下1階のコンクリート打設後に、柱鉄筋の「圧接工事」を行います。2本の鉄筋を突き合わせ、その部分に「バーナー」で熱を加えることで、1本の長い鉄筋にします。
- ・圧接後には、超音波を用いた検査や引張試験を行い、適切に圧接されているか確認しています。

(1) コンクリート打設工事



- ・コンクリート打設時には、構台上から「ポンプ車」が「ブーム」を伸ばすことで作業面までコンクリートを圧送しています。
- ・「コンクリートミキサー車」は、多い時には1日あたり約60台を搬入しています。

(2) 型枠工事(地下ピット)



- ・建物の躯体を建造するために、コンクリートを流し込むための、型枠(木板)を現場で組み立てています。
- ・型枠の形状がそのまま建物の形状となるため、精密さが要求されるこの作業は全て大工さんの手作業で行われています。

コンクリート試験の紹介: スランプ試験



- ・コンクリートは、打設前にいくつかの試験を行い、合格したものを打設しています。
- ・コンクリートの流動性は「スランプ試験」によって判断します。メガホンのような筒にコンクリートを入れて、垂直に引き上げたときに何センチ下がったかを測定し、適切な数値であるか確認します。